2027年3月期 第２四半期（中間期）
連結決算説明資料



2026年11月26日
株式会社オリジン
（証券コード6513）

Agenda

- 2027年3月期 第2四半期（中間期） 連結決算の概況
- 2027年3月期 第2四半期（中間期）セグメント別概況
- 緊急経営改革2026とセグメント別戦略の進捗状況
- 2027年3月期 通期 業績予想・株主還元
- Appendix

Agenda

- ☑ 2027年3月期 第2四半期（中間期） 連結決算の概況
- ☐ 2027年3月期 第2四半期（中間期）セグメント別概況
- ☐ 緊急経営改革2026とセグメント別戦略の進捗状況
- ☐ 2027年3月期 通期 業績予想・株主還元
- ☐ Appendix

2027年3月期 中間期 連結決算　概況

- 中東情勢の影響に伴う顧客の調達不安から一時的な需要増加が発生したケミトロニクス事業、及び半導体製造装置用電源を中心に市況が好転しているエレクトロニクス事業において、販売が好調に推移し、全体として増収
- 増収による固定費の回収及びコスト削減が進んだこと等により、収益性が大きく改善し、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益はいずれも黒字に転換

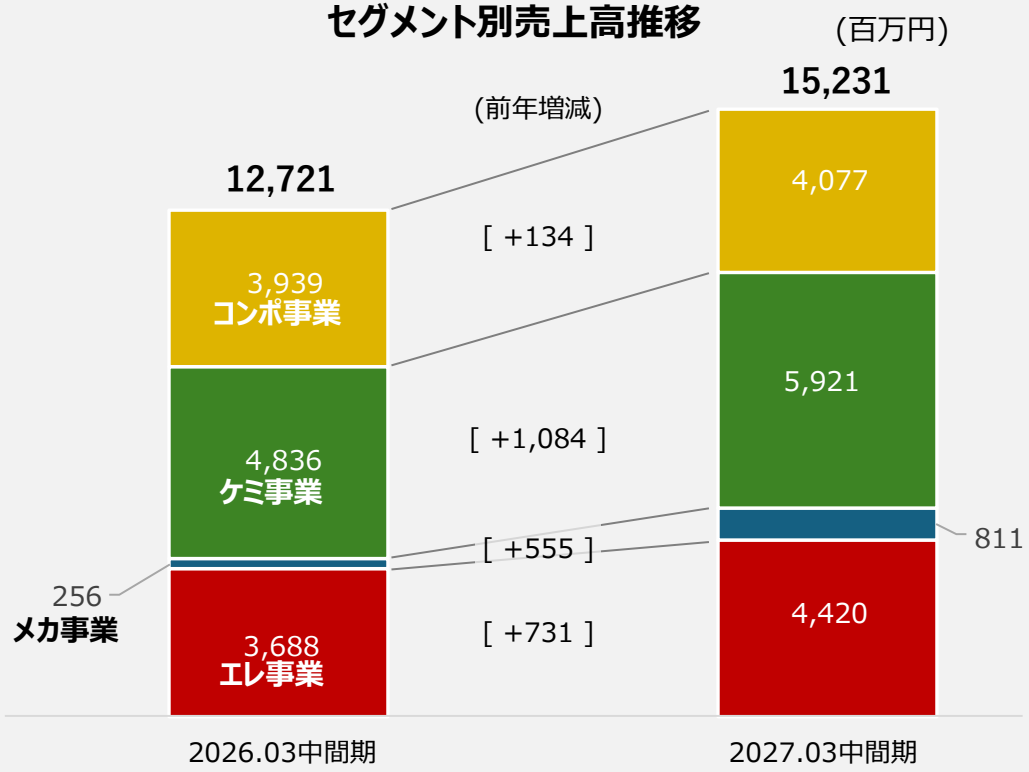
前年同期比較

（百万円）	26年3月期 中間期	**27年3月期 中間期**	**増減額**	**増減率（%）**
売上高	12,721	**15,231**	**2,510**	19.7%
営業利益	▲754	**684**	**1,439**	―
経常利益	▲523	**930**	**1,453**	―
親会社株主に帰属する中間純利益	▲960	**576**	**1,536**	―
設備投資	695	**341**	**▲353**	▲50.9%
減価償却費	480	**490**	**10**	2.1%
研究開発費	793	**666**	**▲127**	▲16.1%

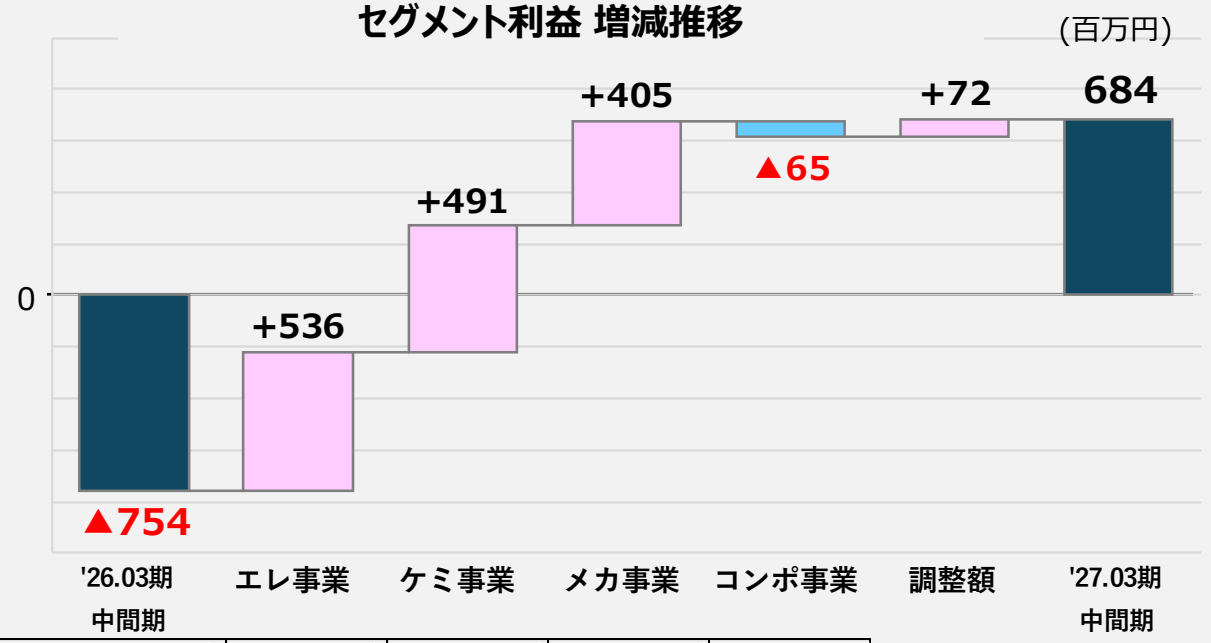
2027年3月期 中間期 連結決算　セグメント売上高・利益の増減

- ケミトロニクス事業：中東情勢の影響に伴い受注が増加したほか、趣味娯楽関連や化粧品関連が好調に推移し、加えて海外拠点も堅調であったことから、大幅な増収（増収増益）
- エレクトロニクス事業：半導体製造装置用電源の需要回復の継続、艦船用電源の需要増加に加え、電気集塵機用電源の大型案件が寄与し、大幅な増収（増収増益）
- 増収による固定費の回収及びコスト削減が進んだこと等により営業利益は684百万円となる（黒字転換）

2026.03中間期 vs. 2027.03 中間期
セグメント別売上高推移



2026.03中間期 vs. 2027.03 中間期
セグメント利益 増減推移

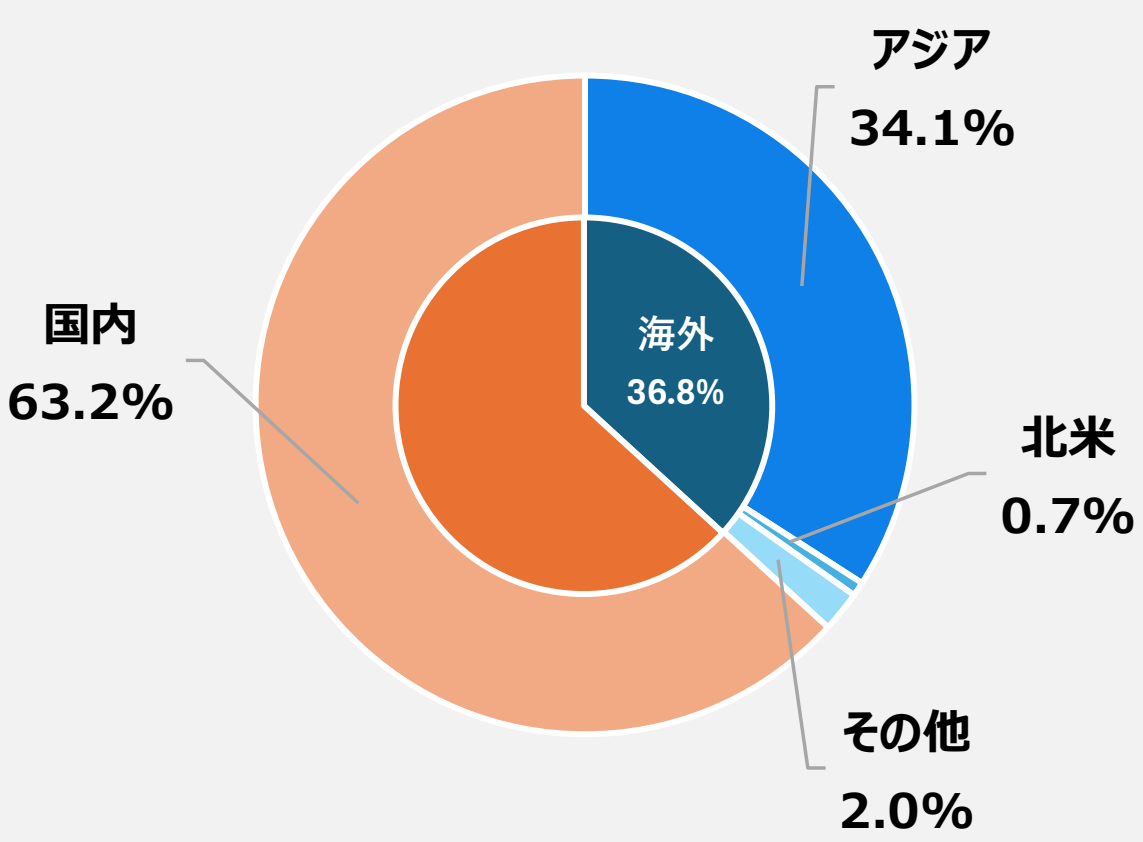


		エレ事業	ケミ事業	メカ事業	コンポ事業
セグメント利益	‘26.03期 中間期	▲19	280	▲488	429
	‘27.03期 中間期	516	772	▲83	363

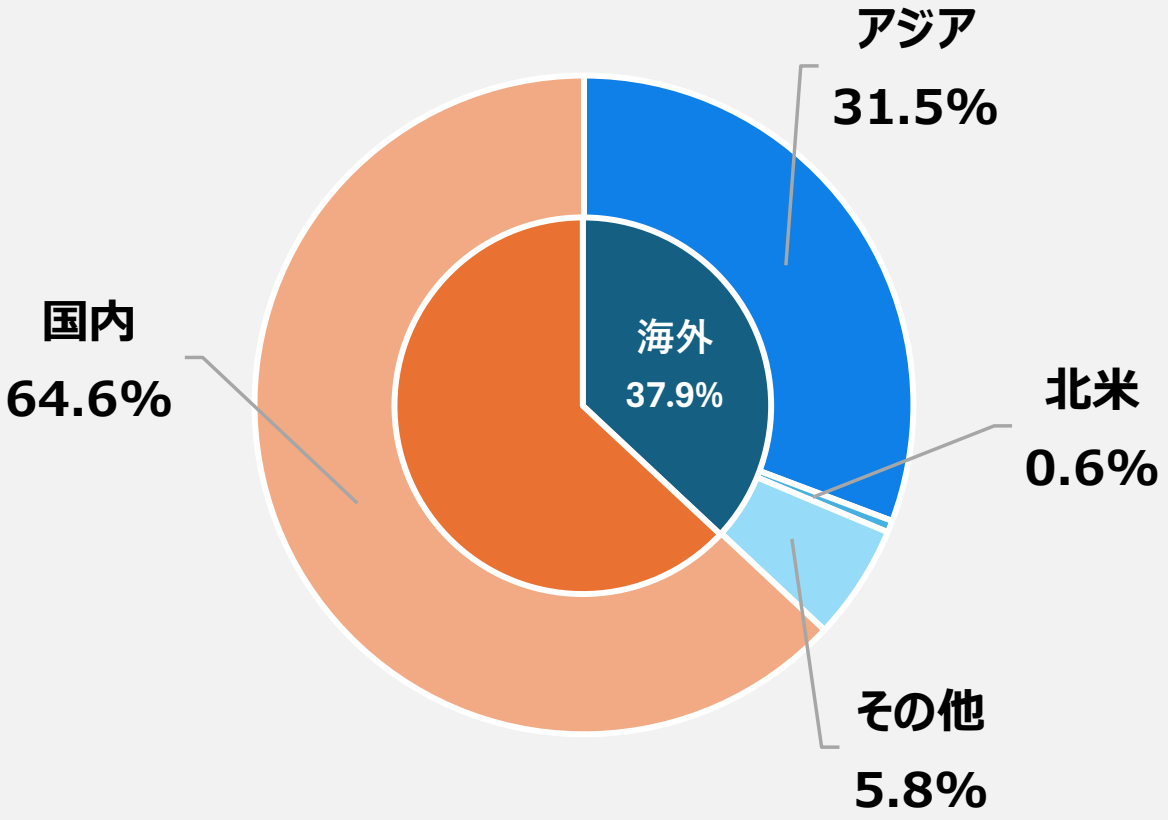
2027年3月期 中間期 連結決算　海外売上高比率

- ケミトロニクス事業で、海外子会社の売上が増加し、メカトロニクス事業の欧州向けディスプレイ用貼合装置（DB）の大型案件が寄与し、海外売上高は前中間期に比べて増加
- 27年3月期中間期の海外売上高比率は全体で37.9%となり、前期と比べて1.1pt上昇

26年3月期 中間期



27年3月期 中間期



2027年3月期 中間期 連結決算　貸借対照表、キャッシュ・フロー

- 資産増加主要因：投資有価証券(1,372百万円増加)
  負債減少主要因：流動負債のその他(415百万円減少)、 長期借入金(254百万円減少)
- 営業活動によるCF：税金等調整前中間純利益（981百万円)、棚卸資産の減少額（508百万円）
  投資活動によるCF：定期預金の純減少額(572百万円)、有形固定資産の取得による支出（456百万円）
  財務活動によるCF：長期借入金の返済による支出(264百万円)、非支配株主への配当金の支払額（222百万円）、
  自己株式の取得による支出（116百万円）

貸借対照表（百万円）

	26年3月期	**27年3月期 中間期**	増減額
流動資産合計	23,215	**23,227**	11
固定資産合計	21,891	**23,139**	1,248
資産合計	45,106	**46,366**	1,259
流動負債合計	9,923	**9,559**	▲363
固定負債合計	9,917	**9,961**	43
負債合計	19,841	**19,521**	▲320
純資産合計	25,265	**26,845**	1,579
負債純資産合計	45,106	**46,366**	1,259
自己資本比率	50.5	**52.5%**	2.0pt
D/Eレシオ	0.19倍	**0.16倍**	

キャッシュ・フロー（百万円）

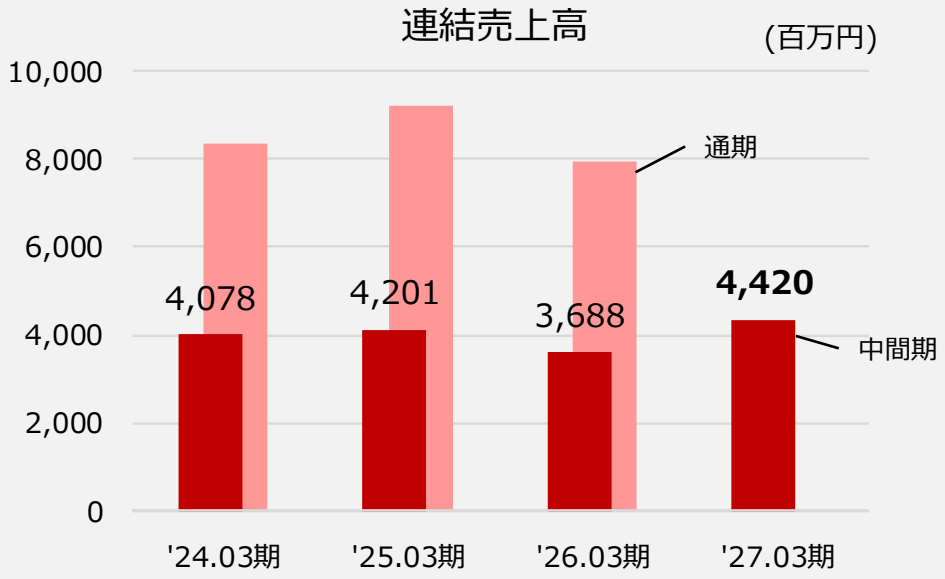
	26年3月期 中間期	**27年3月期 中間期**	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	396	**1,186**	790
投資活動によるキャッシュ・フロー	8	**113**	105
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲859	**▲797**	61
現金及び現金同等物の増減額（▲減少）	▲616	**636**	1,253
現金及び現金同等物の期末残高	4,885	**6,038**	1,152

Agenda

- ☐ 2027年3月期 第2四半期（中間期） 連結決算の概況
- ☑ 2027年3月期 第2四半期（中間期）セグメント別概況
- ☐ 緊急経営改革2026とセグメント別戦略の進捗状況
- ☐ 2027年3月期 通期 業績予想・株主還元
- ☐ Appendix

2027年3月期 中間期 セグメント別概況

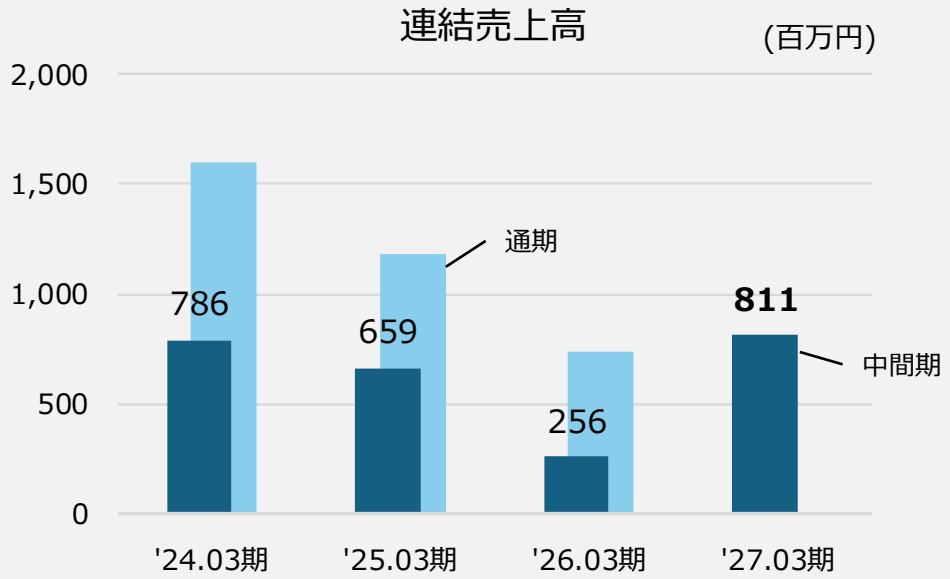
エレクトロニクス事業



主な増減要因

- 通信用電源の堅実な売上計上
- 半導体製造装置用電源が、市場の需要回復に伴い、増収
- 艦船用電源は、新造および用途拡大により需要増
- 電気集塵機用電源が、大型案件の売上計上があり増収

メカトロニクス事業

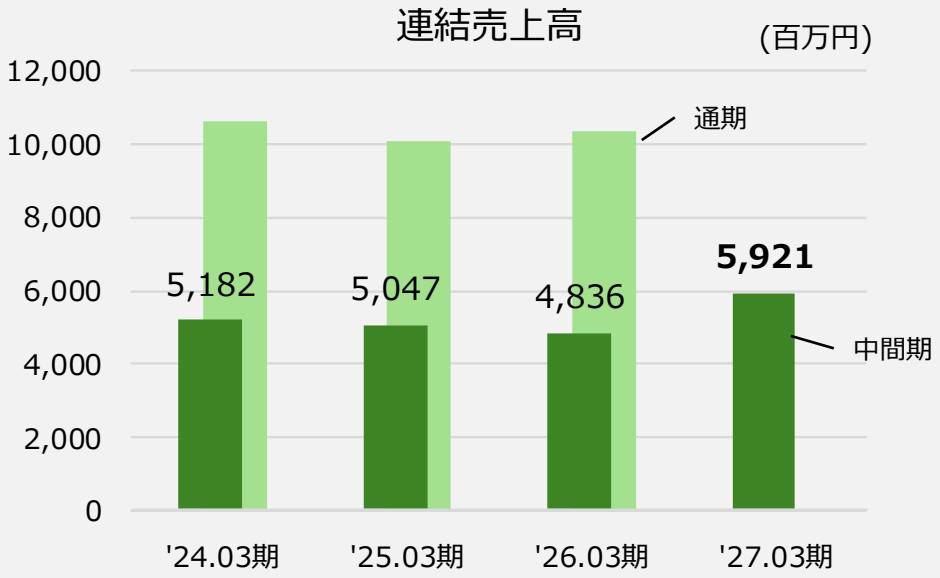


主な増減要因

- 欧州向けディスプレイ用貼合装置(DB)の大型案件売上計上による増収
- 組織体制の見直しによる収益改善
- ギ酸還元リフロー炉（VSM）の市場展開継続

2027年3月期 中間期 セグメント別概況

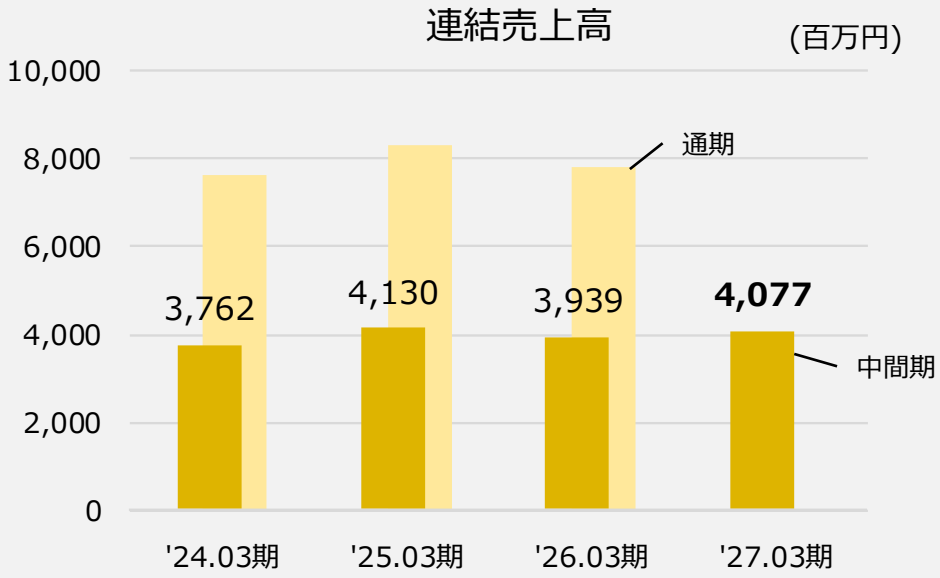
ケミトロニクス事業



主な増減要因

- モビリティ向けは、中東情勢悪化に伴う供給網の変化に対応した受注確保と、原材料高騰に伴う適正な販売価格の見直しにより増収
- 趣味娯楽関連及び化粧品関連の伸長
- 海外拠点が総じて堅調に推移

コンポーネント事業



主な増減要因

- 金融機器関連、設備(半導体製造装置向け)関連が堅調に推移
- モビリティ関連は、国内は堅調に推移し、海外拠点においても本格生産開始
- 主力の事務機器関連において、特に中国拠点にて顧客のASEANへの生産移管に伴い減収

Agenda

- ☐ 2027年3月期 第2四半期（中間期） 連結決算の概況
- ☐ 2027年3月期 第2四半期（中間期）セグメント別概況
- ☑ 緊急経営改革2026とセグメント別戦略の進捗状況
- ☐ 2027年3月期 通期 業績予想・株主還元
- ☐ Appendix

緊急経営改革2026：施策の進捗

経営目標　連結営業利益 2億円

⇨ **達成見込み**（今期業績予想 営業利益 **１０億円**）

主要施策（三本の柱）

市場別・製品別ポートフォリオの強化 スピード感を重視した顧客対応

ポートフォリオの強化

- POCHA＋の販売開始（2026年9月度）
- ギ酸還元リフロー炉「MPW」の販売開始
  →顧客との仕様調整を開始
- エコネットMGの販売開始

スピード感を重視した顧客対応

- 中東情勢による前倒し受注への対応
- 半導体市場拡大による生産増への対応

聖域なきコスト改革

事業部構成の再編

- メカトロニクス事業部の縮小
- 半導体デバイス部並びにメカトロニクス事業部のエレクトロニクス事業部への集約を完了し、重複管理コストの削減

拠点の再編

- 朝霞事業所、蘇州代表所、オリジンコリア社の閉鎖

経費削減

- 販売管理費　：前上半期比1.6億円の削減
- 原価率　　：5ポイントの改善

立案計画の精査と厳格な実行 ガバナンス体制と人的資本の強化

ガバナンス体制と人的資本の強化

- 経営に関する会議体の見直し実施
  - 意思決定の迅速化
  - 議論の深化
- 人事評価制度の見直し実施

立案計画の精査

- 経営企画部門を中心としたモニタリングは継続対応中

2027年3月期　セグメント戦略 進捗トピックス

エレクトロニクス事業

キー戦略［**成長戦略と収益性向上**］

成長戦略の推進（トップラインの継続的拡大）

- 重点分野「医療(X線用)、半導体(高圧電源)、防衛、EP(集塵機用)」における、前期比製品売上増の達成
  ※ Appendix (2)参照
- 新製品　POCHA＋(可動式EV充放電器)の販売開始
  ※ Appendix (1)参照

構造・業務改革による収益性向上

- 事業の統合（エレクトロニクス事業部、半導体デバイス部、メカトロニクス事業部）による重複業務の効率化を推進

メカトロニクス事業

キー戦略［**事業再構築・収益改善**］

注力市場におけるトップライン成長と技術開発

- アドバンスドパッケージ向けリフロー炉「MPW」を製品化し、大手半導体メーカーを含む顧客複数社との仕様検討やサンプル評価を実施中
  ※ Appendix (2)参照

収益構造の改革と組織のスリム化

- 朝霞事業所、蘇州代表所閉鎖と、それに伴う関連経費の削減

2027年3月期　セグメント戦略 進捗トピックス

ケミトロニクス事業

キー戦略［**次世代市場創出・利益率向上**］

次世代（NEXT）市場の創出

- マグネシウム合金用塗料の新製品「エコネットMG」の販売開始（モビリティ/趣味・娯楽市場にて、顧客評価実施中）
- 建築・インフラ市場向けの高耐久・1コート塗料「オリジビルド シリーズ」での採用拡大
- 市場要求に応える高輝度(金属調)製品群の開発・製品化に注力

適正なプライシング

- 原材料高騰に伴うコスト増加分の適正な販売価格への反映

コンポーネント事業

キー戦略［**選択と集中・高付加価値化**］

事業・顧客ポートフォリオの最適化

- 中国拠点におけるモビリティ関連製品の量産開始
- 需要増が見込まれる設備関連(半導体市場向け)製品の生産体制の強化
  ※ Appendix (2)参照

収益構造の改善

- 結城工場におけるモビリティ関連製造ラインの整備・自動化推進(本格稼働へ向け、最終調整中)

成長領域の拡大と組織基盤強化

- 趣味・娯楽関連市場およびグローバル市場への取り組み強化

Agenda

- ☐ 2027年3月期 第2四半期（中間期） 連結決算の概況
- ☐ 2027年3月期 第2四半期（中間期）セグメント別概況
- ☐ 緊急経営改革2026とセグメント別戦略の進捗状況
- ☑ 2027年3月期 通期 業績予想・株主還元
- ☐ Appendix

2027年3月期 通期 連結業績予想

- 当中間連結会計期間の業績及び今後の見通しを勘案し、2026年11月11日に業績予想の上方修正を公表
- ケミトロニクス事業は中東情勢に伴う顧客の調達不安による一時需要増、エレクトロニクス事業は半導体製造装置用電源の市況好転で増収となる見通し、さらに固定費回収とコスト削減も進み前回予想を上回る見込み

２７年３月期業績予想

対前期比

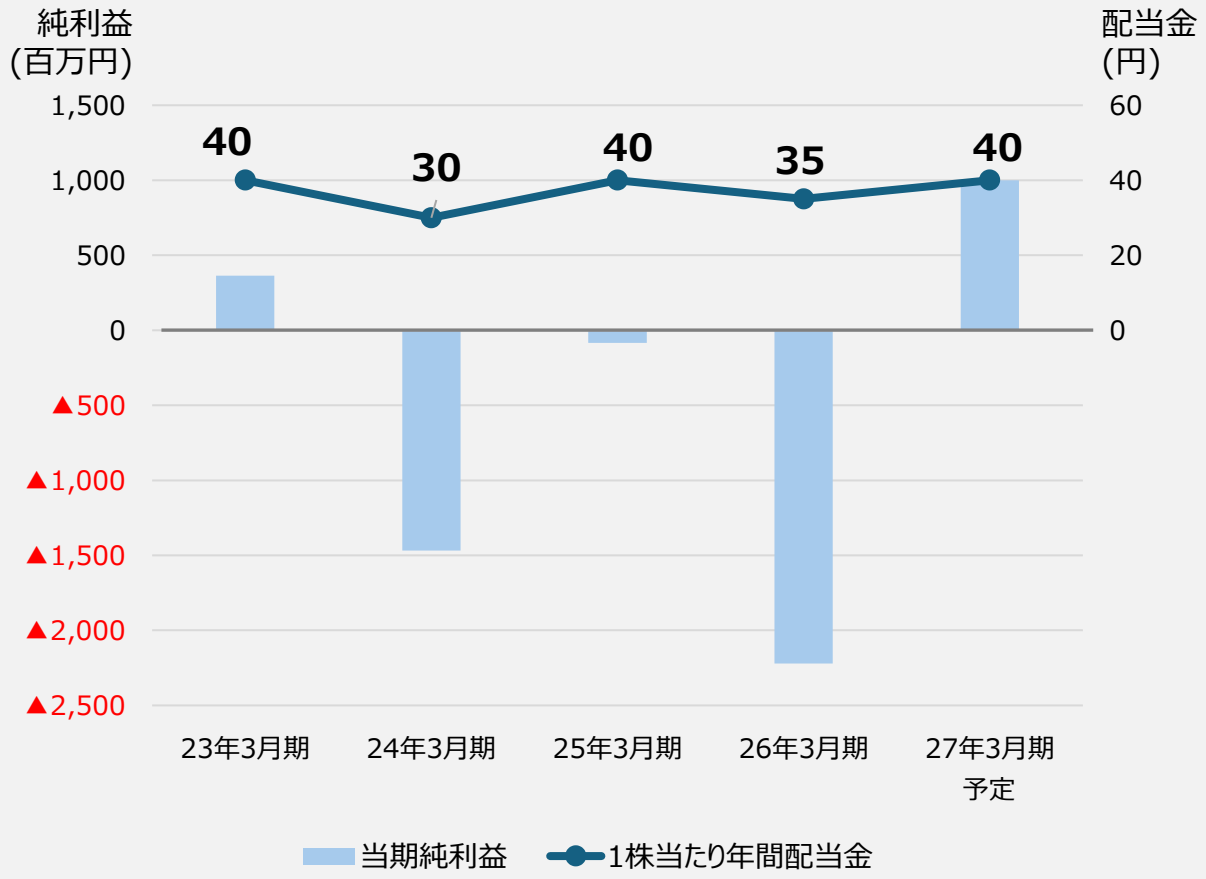
（百万円）

	26年3月期 実績	27年3月期 予想	増減額	増減率（%）
売上高	26,877	30,000	3,122	11.6%
営業利益	▲943	1,000	1,943	—
経常利益	▲384	1,400	1,784	—
親会社株主に帰属する当期純利益	▲2,220	1,000	3,220	—
ROE	—	4%	—	

株主還元

- 26年5月13日に自己株式124,600株を取得
- 27年3月期の配当金は中間配当金20円、期末配当金20円（予定）の年間40円予想（前期比5円増）

１株当たり年間配当金の推移



次期 中期経営計画の策定について

2028年3月期を初年度とした、次期中期経営計画の策定を進めております。

概　　要　　：2038年の創業100周年に向けた長期ビジョンを提示し、ビジョンの実現に向けた持続的な企業価値向上を牽引する計画を策定いたします。

説明会日時　　：2027年5月（予定）

2038年
オリジンは100周年を迎えます。

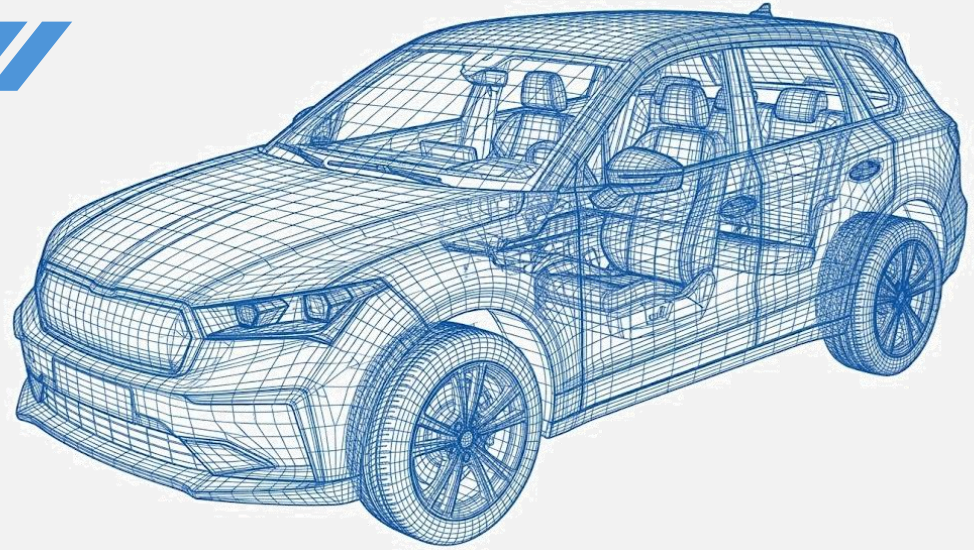
次の100年に向けた新たな一歩を踏み出します。

Agenda

- 2027年3月期 第2四半期（中間期） 連結決算の概況
- 2027年3月期 第2四半期（中間期）セグメント別概況
- 緊急経営改革2026とセグメント別戦略の進捗状況
- 2027年3月期 通期 業績予想・株主還元
- ☑ Appendix

Appendix (1) 成長市場への積極的な製品展開

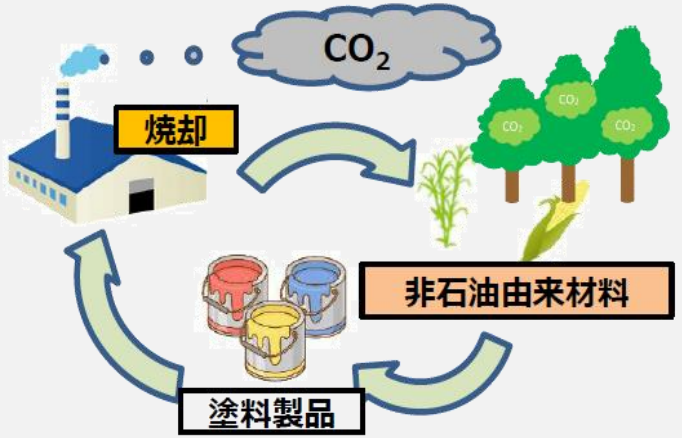
モビリティー分野



【環境対応塗料】

モビリティ向け市場では、CO_2削減の機運から、環境負荷を低減する内外装の加飾技術に注目が集まっています。

当社の環境配慮型塗料は、排出されるCO_2の削減に貢献するバイオマスベース原料の使用や、乾燥や硬化といった塗装工程でのエネルギー使用量を抑える配合技術により、高い意匠性を備えながら、環境に配慮した高性能塗装を実現します。

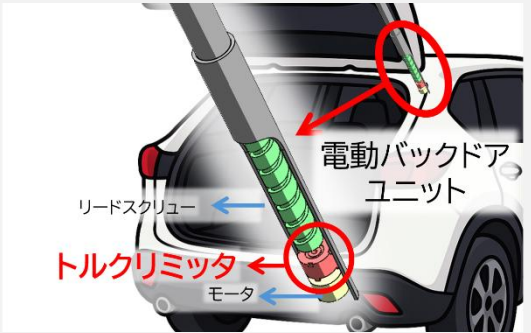


【モビリティ向け精密機構部品】

電動化モビリティーの急速な普及に伴い、車内外の各種機能装備の電動化も進んでいます。

当社のトルクリミッタは、複雑な制御を必要としない受動的な回転・トルク制御機構により、電動機構のスムーズな動作をサポートしたり、過負荷に対する駆動部・モーター部の損傷を防止するといった高度な機能を提供しています。





【電気自動車(EV)関連市場向け充・給電ソリューション】

EVの普及拡大に向け、きめ細やかな充電インフラの拡充と、災害時等におけるEVバッテリーからの電力活用が様々な場面で求められています。

当社のPOCHAシリーズは、ロードサービス等でのEVからEVへの電欠対応を可能にする機器に加え、新たに可搬型の充電機能と大電力の給電機能を兼ね備えた2in1機器をラインナップしました。EVの普及および、将来のエネルギーストレージソリューションの確立に向け、更なる製品展開と技術革新を推進してまいります。

POCHA+
2026年9月 販売開始



POCHA V2V

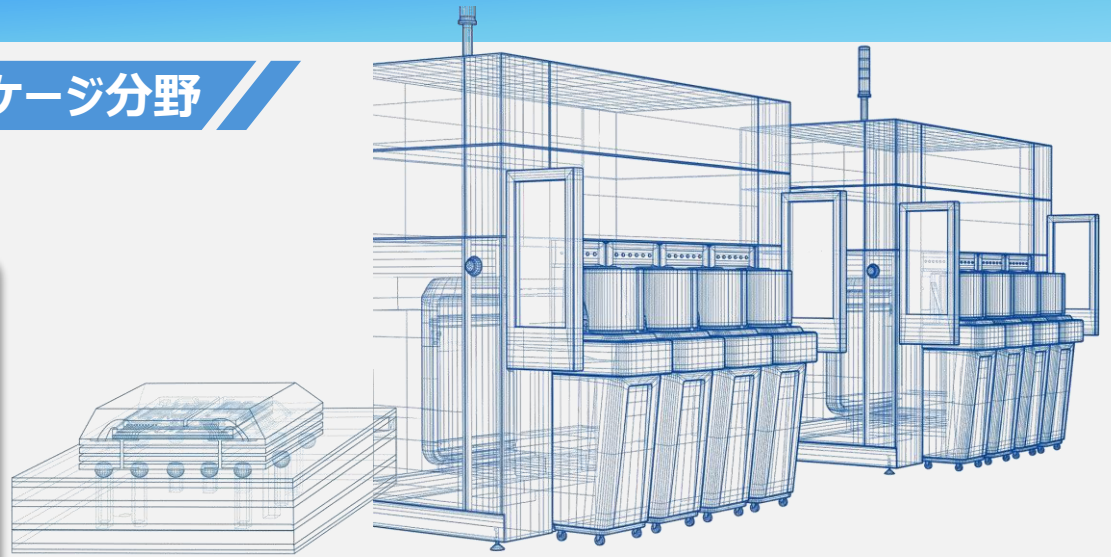




POCHA LiB

Appendix (2) 成長市場への積極的な製品展開

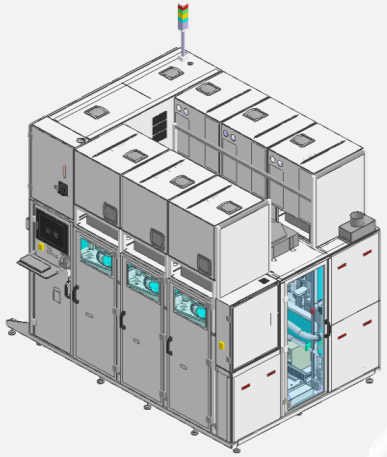
半導体製造装置・先端パッケージ分野

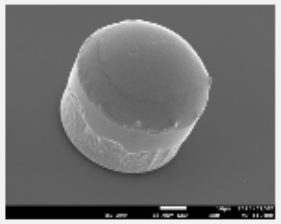


【先端パッケージ向けリフロー装置】

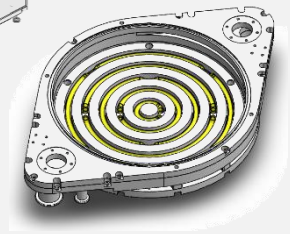
3次元微細構造へと進化する先端半導体パッケージは、AI向け半導体や大容量メモリーに不可欠な基幹ソリューションです。

当社のギ酸真空リフロー装置は、3次元実装のキーテクノロジーである、微細なはんだバンプ形成・接合を独自のギ酸還元と真空熱処理技術により、高い経済性と品質を両立して実現します。









【半導体製造装置向け高圧電源】

先端半導体製造工程における、成膜、露光、検査などのプロセス装置では、プロセスの品質を左右する高電圧電源は、ますます重要度を増しています。

当社の半導体製造装置用高圧電源は、長年培われた高安定、高精度なアナログ回路技術と、高度な制御を実現するデジタル制御技術の融合により、進化を続ける半導体産業の基盤を強力に支えています。



【搬送、精密位置決め用 半導体装置向け機構部品】

機器の位置決め精度や長期安定性、動作の平滑性は、極めて高い生産性を求められる半導体製造装置にとって必須の要素です。

当社の小型高精度ベアリングは、寸法制約のある装置に収まるコンパクト形状でありながら、高い荷重耐量と高精度を実現し、顧客の用途に応じたきめ細やかな製品展開により、装置の信頼性と生産性を向上させます。





Appendix：会社情報

以下のリンクから当社ホームページ（https://www.origin.co.jp/）の情報を閲覧できます。

- 会社概要　(ホーム > 企業情報 > 会社概要)
- 国内拠点一覧　(ホーム > 企業情報 > 国内拠点一覧)
- 海外拠点　(ホーム > 企業情報 > 海外拠点一覧)
- 株式メモ・株主に関する手続きのご案内
  (ホーム > 株主・投資家情報 > 株式情報 > 株式基本情報)



◎ 当資料は株式会社オリジンが作成したものであり、内容に関する一切の権利は当社に帰属しています。複写及び無断転載はご遠慮下さい。

◎ 当資料に掲載しております情報は、2027年3月期 第2四半期（中間期）連結決算の経営成績や財務内容等の提供を目的としておりますが、内容についていかなる保証を行うものではありません。

◎ 業績予想等は、現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在していますので、実際の業績はこれらの予想数値とは異なる場合があります。

◎ 当資料は当社が現在発行している、また将来発行する株式や債券等の保有を推奨することを目的に作成したものではありません 。

お問い合わせ窓口

株式会社オリジン
経営企画本部　事業推進グループ
E-mail：ir@origin.jp